

#### 4. 坂井委員プレゼンテーション資料

## 高齢者リハビリテーション における歯科の効果

日本歯科医師会

## 口腔ケア

口腔ケアは摂食・嚥下、会話等の口腔機能を保持することにより、要介護者のQOLとADLの維持・増進を図ることを目的とします。

介護者による日常的な口腔ケアと歯科医師、歯科衛生士等による専門的口腔ケアがあります。

専門的口腔ケアには歯科治療、歯科保健指導、専門的口腔清掃、摂食・嚥下のリハビリ等が含まれます。

## 専門的口腔ケアの効果 その1 歯科治療の効果

痛む歯や、動揺する歯を治療すると

- ・良く噛めるようになり、食品の種類が増える
- ・食事の量が増える

よくあつた入れ歯を入れると

- ・咀嚼機能が改善する
- ・嚥下機能が改善する
- ・発音がはっきりする
- ・容貌が若々しく、元気になる
- ・脳の血流量が増加する
- ・ふらつき、歩行速度、歩幅、歩行周期が改善する

## 専門的口腔ケアの効果 その2 歯科保健指導、専門的口腔清掃の効果

- 歯科保健指導により対象者一人一人にあつた、汚れの除去効果の高い、日常的な口腔ケアの方法を本人や介護者が行えるようになる  
磨いている → きれいに磨けている状態に変化
- 専門的口腔清掃により歯周ポケット内のような清掃困難な部分まできれいにすると
  - ・むし歯や歯周疾患が予防できる
  - ・歯肉の腫れや出血、口臭が改善する
  - ・誤嚥性肺炎を予防する
  - ・日常的な口腔ケアが容易となる

## 健康な口腔



## 回復期患者の口腔

多量の食物残渣



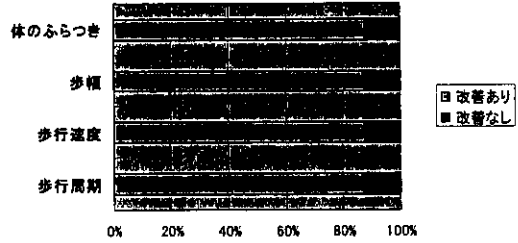
脳卒中発症後6ヶ月が経過した口腔  
多数の重症のむし歯と多量の歯石、歯肉の腫れ



よくあった入れ歯を入れることの効果

総入れ歯をいれると8人中7人に歩幅、歩行速度等の改善が見られた

対象者:無歯顎患者 8名(男:3, 女:5 : 年齢65~82歳 平均69.4歳)



(注:一部、全部床義歯の装着が無歯顎者の身体平衡に及ぼす影響、口腔誌:66, 1, 8-14, 1999)

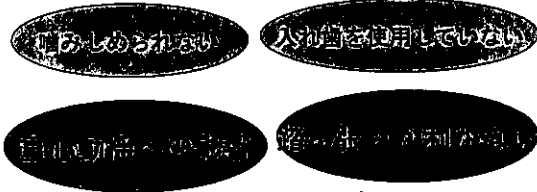
入れ歯をいれることの効果  
容貌が若々しく元気になる



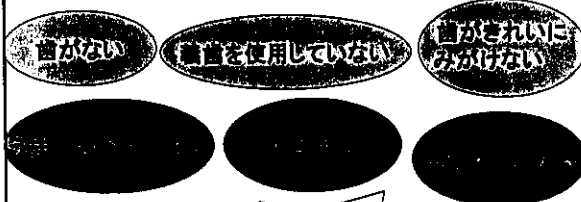
入れ歯をいれていない

入れ歯をいれている

入れ歯による噛み合わせの回復が  
転倒骨折予防に効果がある

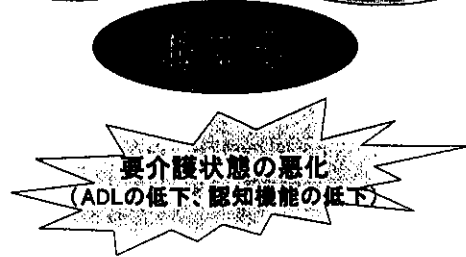


入れ歯による容貌の回復や歯科保健指導、  
専門的口腔清掃による口臭の改善が  
閉じこもり予防に効果がある



活動意欲の低下 → 閉じこもり

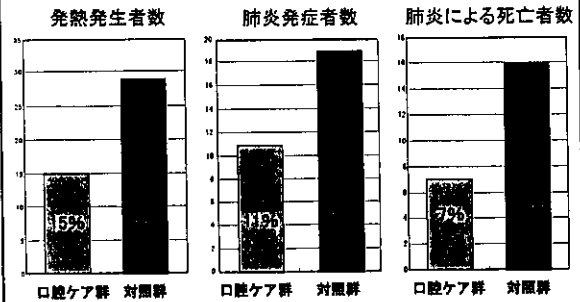
入れ歯による咀嚼機能の改善は  
低栄養の予防に効果がある



### 専門的口腔ケアは気道感染予防に効果がある

- ・ 全国11カ所の特別養護老人ホーム入所者366名を対象として2年間調査を行った。
- ・ 対象者を施設毎に無作為に口腔ケア群と対照群に分けた。平均年齢、脳血管障害既往者率、開始時のADL等開始時の全身状況に有意な差はなかった。
- ・ 口腔ケア群: 日常的口腔ケアと週1回の歯科医師、歯科衛生士による専門的口腔ケアを行う 184名  
対照群 : 従来実施していたケアのみ行う 182名
- ・ 結果:  
専門的口腔ケアを行った群は対照群より、発熱発症者数、肺炎発症者数はほぼ半分で、肺炎による死亡者数は半分以下であった。

### 専門的口腔ケアの効果



(米山真穂ら、要介護高齢者に対する口腔衛生の誤嚥性肺炎予防効果に関する研究  
日歯医学会誌: 20, 58-68, 2001)

### 現在、高齢者を対象とした歯科健康診査の制度がない

- ・ 老人保健事業の歯周疾患検診は40歳と50歳のみが対象となっている
- ・ 介護予防では気道感染予防が重視されていない
- ・ 介護保険の認定調査では口腔の健康状態を評価していない
- ・ 介護保険施設では定期的歯科健康診査が義務づけられていない
- ・ 介護保険で評価されていないため、誤嚥性肺炎の予防に効果がある専門的口腔ケアが普及しない

そのため、必要な歯科治療、歯科保健指導、専門的口腔清掃を受けていない人が多数を占めている

### 多くの高齢者リハビリテーションの対象者は、リハビリ効果を高める専門的口腔ケア(歯科治療、歯科保健指導、専門的口腔清掃)を受けていない

藤田保健衛生大学附属病院調べ  
3つのリハビリ病棟入院中の全患者に対する調査

入院患者151人中  
歯科治療が必要だった人 139人(92%)  
そのうち治療を受けていた人 3人(2%)

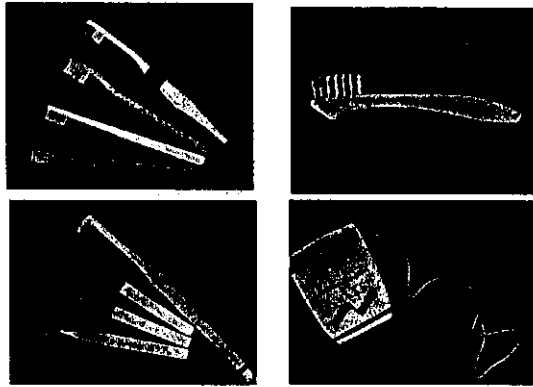
### 通院が困難な場合は医療保険の訪問歯科診療が利用できます

- まず、かかりつけ歯科医、協力歯科医療機関に相談を
- かかりつけ歯科医がない場合は各地区の歯科医師会に相談を
- ・ 約8割の都市歯科医師会に訪問歯科診療システムが整備されています(H13.1調査)
- ・ システムが整備されていない地域であっても訪問診療を行う歯科医師を紹介する等の対応を行っています

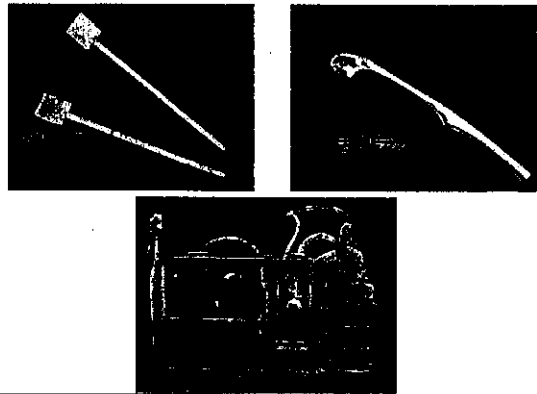
### 歯の汚れ(プラーク)の特徴

- ・ 細菌がつくった菌体外多糖と呼ばれ、粘着力が強く、水に不溶性の成分の中に多くの細菌が存在している。
- ・ 強い粘着力で歯面、入れ歯などに付着しているため、うがいではとれない。
- ・ プラーク内には抗菌剤や消毒剤が浸透しにくいので、薬液によるプラークの抑制効果は小さい。  
→ 歯ブラシなどで丁寧に取り除く必要がある。  
磨いているだけでなく、きれいに磨けていることが必要であるが、きれいに磨くことは簡単なことではない。

口腔清掃用具 その1

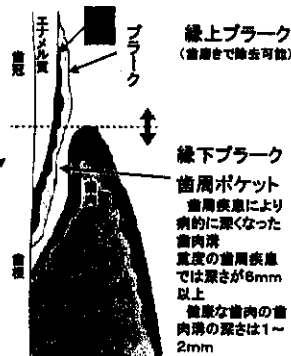


口腔清掃用具 その2



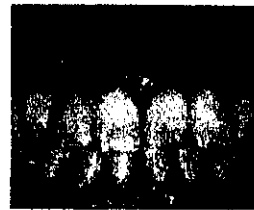
歯周ポケット内の清掃の重要性

歯磨きをしても歯石や歯周ポケット内の汚れ(線下プラーク)は除去できない。歯石や歯周ポケット内のプラークを除去しないと歯肉の腫れや出血の改善は困難である。歯科医師、歯科衛生士により除去される必要がある。



歯周疾患

歯肉の腫れ、歯肉出血、歯石除去、歯科保健指導後  
歯石、歯周ポケット



治療前



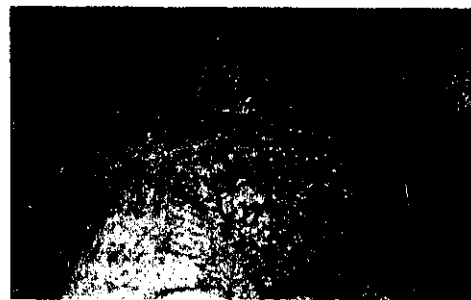
治療後

- ・歯だけでなく舌や粘膜にも細菌が繁殖します。
- ・入れ歯にも細菌が繁殖します。  
(デンチャープラーク)
- ・経管栄養を行っている場合や嚥んでいない場合は、唾液の量が減少します。また、咀嚼による自浄作用がないため、口腔内は非常に汚れやすく、積極的な口腔清掃が必要となります。

→すべての人に口腔清掃が必要です。

きれいに磨くには技術が必要です。歯科医師や歯科衛生士による効果的な口腔清掃方法の指導が有効です。

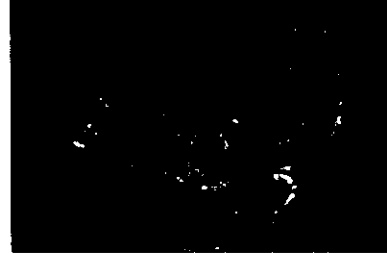
舌苔



### 口腔粘膜の汚れ



### 入れ歯の汚れ(デンチャープラーク)



### 噛んでいない口腔の汚れ



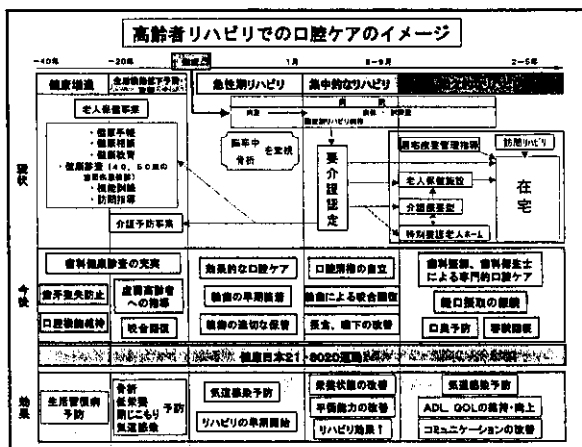
### 専門的口腔ケア前後の 口腔内の状態の変化



ケア前  
大量のプラーク  
歯肉の腫れ



ケア後  
きれいに磨けている  
歯肉の腫れも改善している



### まとめ

専門的口腔ケア(歯科治療、歯科保健指導、専門的口腔清掃)は介護予防及び高齢者リハビリテーションの効果を高める。

現在、高齢者を対象とした歯科健康診査の制度がないため、必要な歯科治療や歯科保健指導、専門的口腔清掃を受けていない高齢者が多数を占めている。

今後、高齢者を対象とした歯科健康診査の制度を整備し、介護予防においては気道感染予防を重点化し、高齢者への専門的口腔ケアの促進を図る必要がある。

また、誤嚥性肺炎の予防に効果がある専門的口腔ケアを介護保険で評価し、普及を促進することが重要である。

この発表は日本歯科医師会が井下英二氏(東京歯科大学)と、田中一郎氏(新潟大学)、大塚真子氏(東京医科歯科大学)、清谷実氏(日本歯科大学)の賛助を参考に制作しました。